

日本教育方法学会 第34回大会プログラム

《大会日程》

第一日 10月3日・土	9：30	課 題 研 究 I			課 題 研 究 II		
	12：00	総 会					
	12：50	休 憩					
	13：30	自由研究 1	自由研究 2	自由研究 3	自由研究 4	自由研究 5	自由研究 6
	15：40	シ ン ポ ジ ウ ム					
	15：50						
	18：20	会 員 懇 親 会					
	18：30						
	20：00						

第二日 10月4日・日	9：30	自由研究 7	自由研究 8	自由研究 9	自由研究 10	自由研究 11	自由研究 12	自由研究 13
	12：00	休 憩						
	13：00	課 題 研 究 III				課 題 研 究 IV		
	15：30							
	15：40							
	16：30	ワークショップ・ラウンドテーブル						

1998年10月3日(土)・10月4日(日)
於 福岡 教育 大学

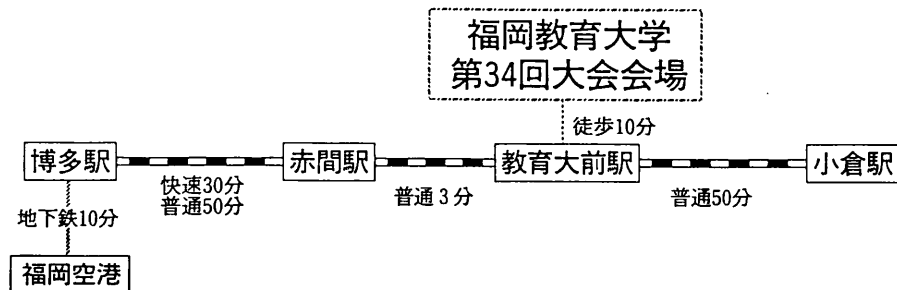
大会参加要領

1. 会場案内：会場は、福岡教育大学です。会場への経路につきましては、次頁をご参照ください。
2. 受付：大会第1日目(10月3日・土)は8:30, 第2日(10月4日・日)は9:00からです。
 - ・大会参加費(発表要旨集録代を含む)は、一般会員3,500円, 学生会員2,500円です。
 - ・当日会員(臨時会員)もこれに準じて受け付けております。
 - ・本年度までの学会費(一般会員6,500円, 学生会員4,000円,)を未納の方は、あわせてお納めください。
 - ・本年度の学会費を納入された方には、受付にて『教育方法27』をお渡しします。
 - ・会員懇親会の参加受付も行いますので、ふるってご参加ください。詳しくは、11頁の「インフォメーション」をごらんください。
 - ・受付にてネームプレートを用意しておりますので、お名前をお書きのうえ、おつけください。
3. 昼食：第1日, 第2日とも学内の食堂は営業しておりません。受付にて弁当券を販売する予定です。
なお、会場付近には飲食店はあまりありません。
4. 研究発表：発表会場につきましては、4頁の「講義棟の案内図」をごらんください。
 - ・自由研究の発表時間は、以下の通りです。
 - 個人研究：発表20分 質疑10分
 - 共同研究：発表30分 質疑10分(但し、口頭発表者が1名の場合は、個人研究に準じます。)
 - ・本プログラムに記載されているコーディネーターおよび司会者、提案者の氏名は、五十音順です。
 - ・自由研究における共同研究発表者の氏名は、「発表申込用紙」に記入された順序によります。また、○印は口頭発表者です。
5. 会場校連絡先：〒811-4192 福岡県宗像市赤間729-1 福岡教育大学

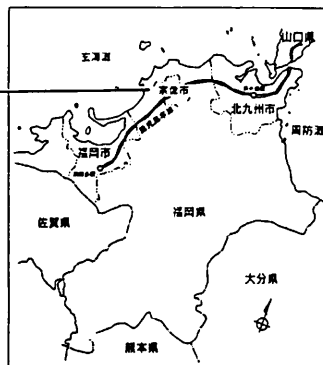
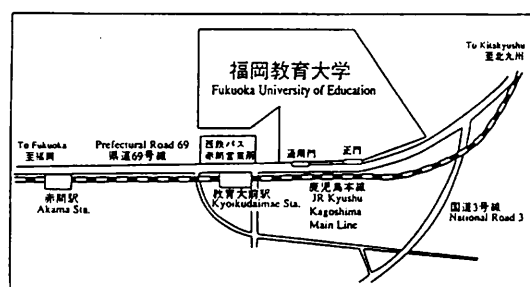
なお、大会に関するお問い合わせは、学会事務局(TEL. 0824-24-6744)にお願いいたします。

<福岡教育大学案内図>

【会場への主要経路】



- (1) 航空機利用者（福岡空港着の場合）、地下鉄でＪＲ博多駅へ～片道220円
- (2) ＪＲ利用者（博多からの場合）～片道630円
 - ・鹿児島本線上り（小倉・門司港方面）普通電車で乗車(50分)、教育大前駅下車、徒歩(10分)
 - ・鹿児島本線上り（小倉・門司港方面）快速電車で乗車(30分)、赤間駅にて普通電車で乗り換え(3分)
- (3) ＪＲ利用者（小倉からの場合）～片道630円
 - ・鹿児島本線下り（博多方面）普通電車で乗車(50分)、教育大前駅下車、徒歩(10分)（快速の場合は、黒崎で普通電車で乗り換え）
- (4) バス利用者（福岡市天神からのみ）～片道940円
 - ・福岡市天神バスセンターで、西鉄バス赤間営業所行(急行)に乗車(1時間)、教育大前または赤間営業所下車、徒歩(10分)
- (5) 自動車
 - ・九州自動車道古賀インターまたは若宮インターから会場まで（大学内の駐車場をご利用下さい）



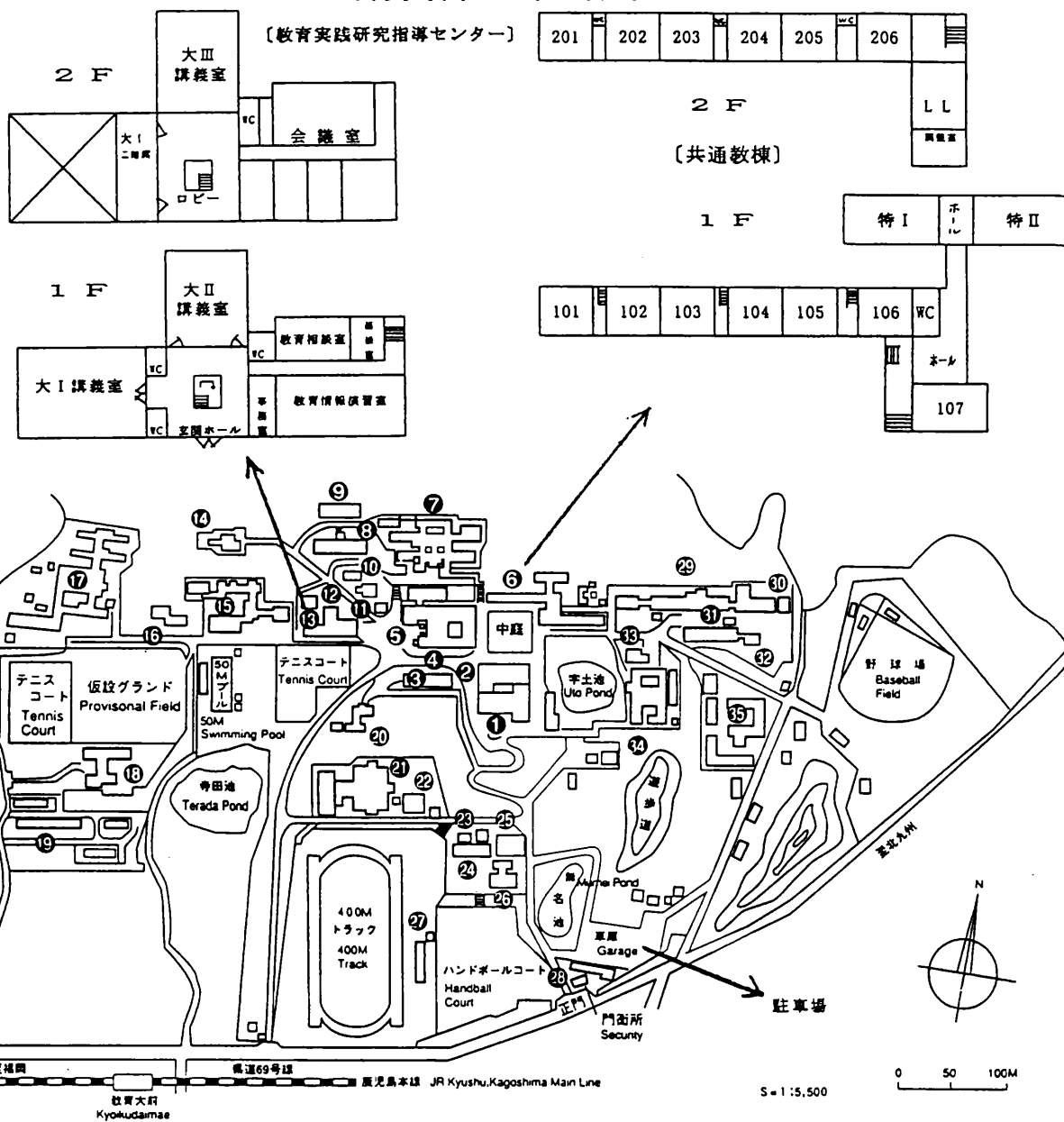
<ＪＲ時刻表>

00：快速									
博多→教育大前駅(上り)					小倉→教育大前(下り)				
7	02 07	21 29	45	49	02 07	19 24	38	43	56
8	03 07	15 28	35	40 51		13 25	38	41	
9	07 13	27 31	41	51	02	13 18	33	45	
10	07 11	27 31	43	51	00 07	24 29	40	45	
11	07 11	27 31	43	51	00 07	24 29	40	45	
12	07 11	27 31	43	51	00 07	24 29	40	45	
13	07 11	27 31	43	51	00 07	24 29	40	45	
14	07 11	27 31	43	51	00 07	24 29	40	45	
15	07 11	27 31	43	51	00 07	24 29	40	45	
16	07 11	27 31	43	51	00 07	24 29	40	45	
17	07 11	27 31	37	43 56	00 07	24 27	40	42	

教育大前→博多				教育大前→小倉			
10	01 28	53	03 16	41			
11	09 30	53	02 18	41			
12	08 30	51	02 18	41			
13	08 28	51	02 16	42			
14	08 29	51	02 18	45			
15	09 29	51	03 18	41			
16	09 30	51	02 20	44			
17	09 30	52	02 16	46			
18	08 30	51	03 18	39			
19	08 29	51	02 19	29 43			
20	08 27	40 51	01	40 56			
21	09 24		25	56			
22	11 26	41 55	06	23 58			

※博多発及び博多行きは、赤間で普通と接続します。
 ※小倉発の快速は、黒崎or折尾で普通と乗り換えですが、待ち時間があります。

＜講義棟の案内図＞



②学生会館（会員懇親会会場） ④教科・心理科（大会受付・視聴覚ホール・理事控え室・大会事務局—中庭側からお入りください） ⑥共通講義棟 ⑬附属教育実践研究指導センター

課 題 研 究 I	• III : 大II室
課 題 研 究 II	• IV : 大III室
自 由 研 究 1	• 7 : 101室
自 由 研 究 2	• 8 : 102室
自 由 研 究 3	• 9 : 203室
自 由 研 究 4	• 10 : 204室
自 由 研 究 5	• 11 : 205室

自由研究 6・12: 206室
自由研究 13 : 106室
シンポジウム・総会: 大Ⅰ室
*会員控室〈視聴覚ホール〉
理事控室〈教科演習室〉
大会事務局〈共通演習室Ⅱ〉
※会員懇親会は、学生会館一階の

10月3日(土) 午前

課題研究Ⅰ

戦後授業研究の成果と課題

—あらためて授業研究を問う—

(大Ⅱ講義室)

(9:30~12:00)

司会者

杉山明男(吉備国際大学)
恒吉宏典(龍谷大学)

コーディネーター

小田切 正(北海道女子大学)
杉山明男(吉備国際大学)

提案者

- 小田切 正(北海道女子大学) 戦後授業研究と教育実践
—「五大学共同研究」の基本構想を中心に— ……21
- 田中耕治(京都大学) 戦後教育評価論の位相と展開 ……22
- 豊田ひさき(大阪市立大学) 授業研究と学習集団
—その史的考察— ……23

(コーディネーターによる設定趣旨)

本課題研究は、第30回(「いま求められている授業研究のあり方—戦後授業研究の成果と課題」)からの継続で、5回目をむかえる。授業—この日常的、恒常的な、どの子どもも参加の活動を対象とした研究が行なわれて、40年に近い。いま、問われているのは、とりわけ激動期の子どもに授業が、どのような意義と役割をもつか、ということであろう。今日、あらたな視点の授業の見直し、授業のつくりかた(内容・方法)、授業の組織化を中心とした方向があるが、なによりも学校づくりの長期的な展望にたつて、これまでの成果と課題をあきらかにするとともに、授業研究のありかたについて、多角的に検討することは重要な意味をもつ。今回は、大きく括って、1) 授業観、児童観(戦後授業研究から) 2) 教育内容・方法の問題 3) 授業組織化の問題 4) 授業評価の問題(課題研究をふくむ) 5) 海外との比較研究の視点から、あらたな授業研究のありかたを問い、つぎへの展望をあきらかにしたい。

10月3日(土) 午前

課題研究Ⅱ

「学級・ホームルーム」の今日的課題
—「学級崩壊」続出を契機に考える—

(大川講義室)

(9:30~12:00)

司会者

庄司 他人男(福島大学)
高田 清(福岡教育大学)

コーディネーター

浅野 誠(中京大学)
高田 清(福岡教育大学)

提案者

浅野 誠(中京大学) 子ども・教師が共同でつくる学級 ……………24
久田 敏彦(大阪教育大学) 「共生=共同」の自由と関係性から「学級」を問い直す ……25

(コーディネーターによる設定趣旨)

このところ、「学級崩壊」で、急な学級編成替え、担任替え、「外部介入」といった事態を余儀なくされる事態、そしてそうした学級を「建て直した」実践例などの報告があいついでいる。それらの背景には、日本の学級システムの多くの問題が反映している。

したがって、たんに「崩壊」を「建て直せばよい」という問題ではなく、むしろ「崩壊」を契機に、日本の学級のありよう、ひいては学校のありようを変えていくことが重要な課題となる。

そこで、「学級崩壊」のなかで浮かび上がってきている、日本の学級を発展的に変えていく課題・方向などを、日本の学級・学校の歴史的な性格をもふまえて、探ることをテーマにする。

考えられる論点を列挙すると、①子ども・父母の学校参加と学級編成・学級実践、②「支配・管理」としての学級と「自治・居場所」としての学級、③学級指導者組織論(一人担任制と集団担任制など)、④学級における生活・学習、⑤学級の全員加入制的性格と「自発的結社」的性格、⑥生徒組織・学校組織のなかでの学級、などさまざまなものが浮かび上がってくる。

10月3日(土) 午後

自由研究 1

(101室)

司会者 片上 宗二 (広島大学)
田中 博之 (大阪教育大学)

- 13:30 ① クラフキ「鍵的問題」構想の授業展開に関する研究26
高橋 英児 (広島大学大学院)
- 14:00 ② “総合的な学習”での国際理解の扱いについて27
植木 節子 (千葉大学)
- 14:30 ③ 学習者・子どもが総合する総合学習单元
—小学校第4学年の場合—28
○安河内 義己 (長崎大学)
○藤吉 和美 (福岡県柳川市立柳川小学校)
- 15:10 ④ 生涯学習社会における小・中学校のボランティア教育に関する基礎的研究...29
原 壽 (福岡県筑後市立筑後小学校)

自由研究 2

(102室)

司会者 寺尾 慎一 (福岡教育大学)
山田 昇 (奈良女子大学)

- 13:30 ① 「相互学習」における学習指導法
—個別・一斉学習との比較から—30
永田 智子 (兵庫教育大学)
- 14:00 ② 大正期別府南尋常高等小学校の「約説的教育」31
松本 裕司 (大分県立日田高等学校)
- 14:30 ③ 成立期社会科の定着過程の研究 (III)
—幼稚園・小学校教員研究集会における社会科部会を中心に—32
谷本 美彦 (宮崎大学)
- 15:00 ④ 社会形成を基盤にした社会科
—生活主義・科学主義批判—33
池野 範男 (広島大学)

自由研究3

(203室)

司会者 上野ひろ美(奈良教育大学)
田代高英(福岡教育大学名誉教授)

- 13:30 ① 教室空間の教授学的再構成—生活に対する学校の近さと隔りに着目して—34
福田敦志(広島大学大学院)
- 14:00 ② 日本におけるパーテンの遊びの段階論の受容過程
—大正・昭和期の心理学と幼児教育分野について—35
小山優子(広島大学大学院)
- 14:30 ③ 幼児の遊びに於けるモノの形式的役割について1.
—「環境構成」のための具体的な手掛かりを探る—36
根津明子(國学院大学幼児教育専門学校, 東京学芸大学他非常勤)
- 15:00 ④ 子どもの自発的な活動を保障する環境設定と教師の支援
—幼稚園での遊び活動から小学校入門期の総合的な活動への連続・発展を意図して—37
○内山 隆(東京学芸大学教育学部附属世田谷小学校)
○伊藤 能之(東京学芸大学教育学部幼稚園科)
○細谷 奏子(東京学芸大学教育学部幼稚園科)

自由研究4

(204室)

司会者 稲葉宏雄(近畿大学)
田代裕一(西南学院大学)

- 13:30 ① 重松鷹泰の学年的発達研究に関する一考察38
宮崎やよい(九州大学大学院)
- 14:00 ② 生きる力を育てる自己評価活動の現状と課題
—自己評価に関する全国調査を通して—39
古川 治(大阪府箕面市教育センター)
- 14:30 ③ 言語の観点に基づく比較授業研究
—日中・小学校の「大造じいさんとガン」の授業記録における言葉を通じて—40
李 霜華(佐賀女子短期大学非常勤)
- 15:00 ④ 分節における諸要因の成立とその展開41
○日比 裕(名古屋大学)
○的場 正美(名古屋大学)
○飯島 薫(名古屋大学)
○松尾 一成(名古屋大学大学院)
○石原 正敬(名古屋大学大学院)
○林 憲子(名古屋大学大学院)

自由研究 5

(205室)

司会者 岩 垣 攝 (千 葉 大 学)
森 脇 健 夫 (三 重 大 学)

- 13:30 ① 授業の「わかりやすさ」(Faßlichkeit)に関する研究
ー授業構成の視点としての「再能動化」(Reaktivierung)を中心にー …42
竹 内 元 (広 島 大 学 大 学 院)
- 14:00 ② 授業における教授ストラテジーとコミュニケーションに関する研究
ー小学校国語科の授業分析を通じてー …43
細 川 和 仁 (大 阪 大 学 大 学 院)
- 14:30 ③ 授業研究の対象としての授業と学習にかかわるディスコース
ー教室ディスコースのナラティブな分析(1)ー …44
○藤 原 顕 (兵 庫 県 立 看 護 大 学)
山 住 勝 広 (大 阪 教 育 大 学)
幾 田 伸 司 (親和女子高等学校・非常勤)
保 坂 裕 子 (大 阪 教 育 大 学 大 学 院)
- 15:00 ④ 教室における文化的自己の対話的構成
ー教室ディスコースのナラティブな分析(2)ー …45
○保 坂 裕 子 (大 阪 教 育 大 学 大 学 院)
山 住 勝 広 (大 阪 教 育 大 学)
幾 田 伸 司 (親和女子高等学校・非常勤)
藤 原 顕 (兵 庫 県 立 看 護 大 学)

自由研究 6

(206室)

司会者 中 村 亨 (西 南 女 学 院 大 学)
八 木 正 一 (埼 玉 大 学)

- 13:30 ① 音楽科教育における創造的思考に関する研究
ー「異化」作用の視点からー …46
岡 本 信 一 (兵 庫 教 育 大 学 大 学 院)
- 14:00 ② 伝統的身体技法を学ぶ意味
ー民俗舞踊の教材化を通してー …47
進 藤 貴美子 (北海道教育大学岩見沢校)
- 14:30 ③ 思考と表現の統合としての「音楽づくり」の一考察
ーデューイの「構成的活動」をてがかりにー …48
小 島 律 子 (大 阪 教 育 大 学)

10月3日(土) 午後

シンポジウム

教育課程・方法の改革は、
現代の子ども状況にどう応えるか

(大1講義室)

(15:50~18:20)

司会者・コーディネーター

柴田 義松(成蹊大学)

中野 和光(福岡教育大学)

提案者

子安 潤(愛知教育大学) 明晰さと教養の捉え直し49

佐藤 学(東京大学) 教育内容「スリム化」と教養の解体に抗して
—カリキュラム研究者の課題—50

土井 捷三(神戸大学) 教育内容・教材への主体—活動理論的視点51

(設定趣旨)

いじめ・不登校・校内暴力・学級崩壊・授業不成立など、このところ子どもの「荒れ」は中学校を中心に、小学校高学年にまでおよび、子どもと教育の危機はこれまでに深刻化している。

このシンポジウムでは、このような問題状況に対し、中央教育審議会が提起し、教育課程審議会が具体化を図ろうとしている「ゆとり」と「生きる力」をスローガンとした学校週5日制に向けての教育課程改革や教育方法の改善は、どうこたえようとするのか、また教育方法学研究者としてわれわれはこれらの問題にどう取り組むべきかについて、三人の提案者にそれぞれの立場からの率直な意見の開陳を依頼した。この提言を受けて、全体討議では参加者からも教育課程・方法の改革を中心にこれからの学校のあり方について活発な論議が展開されることを期待したい。

インフォメーション

●会員総会

日 時 : 第1日(10月3日・土) 12:00~12:50

会 場 : 大I講義室

主な議題 : 会務報告

1997年度決算

1999年度予算案

次期大会校

昼食・休憩前ですが、ぜひとも多数ご参集ください。

●会員懇親会

日 時 : 第1日(10月3日・土) 18:30から

会 場 : 学生会館一階 旧食堂

会 費 : 3,000円程度

会員相互の親睦をはかるため、懇親会を開きます。多数の会員のみなさまのご参加をお願いいたします。

●書籍販売について

学会事務局では、受付にて学会機関誌『教育方法』、研究紀要『教育方法学研究』の最新刊およびバックナンバーを、会員割引価格で販売いたします。この機会にぜひお求めください。

また、本大会の『発表要旨集録』を別途希望される方には、1冊800円にて頒布いたします。

なお、『教育方法』最新刊(第27巻)は、本年度の学会費を納入された方には、受付の際にお渡しいたします。(大会以降に学会費を納入された方には、随時お手元に郵送させていただきます。)

10月4日(日) 午前

自由研究 7

(101室)

司会者 小 泉 祥 一 (高 知 大 学)
松 平 信 久 (立 教 大 学)

- 9:30 ① 芸術家としての教師－E.ウェーバーの教師論を手がかりに－53
荒 巻 敦 (広 島 大 学 大 学 院)
- 10:00 ② 反省的教授と状況に埋め込まれた学習の接点を求めて54
龍 崎 忠 (名 古 屋 大 学 大 学 院)
- 10:30 ③ 現行カリキュラムに対する教師の意識調査55
原 勝 子 (千 葉 大 学 非 常 勤)
- 11:00 ④ マスメディアは教育現場をどうとらえ、どう伝えているか
教育学者・アナウンサー・制作担当者
－「教育トゥディ'98 学校に行きたくない～不登校になった教師たち～」を例に－ ...56
麻 生 信 子 (筑 紫 女 学 園 大 学 非 常 勤)
- 11:30 ⑤ 「参画型教育」の現状と課題57
林 義 樹 (武 蔵 大 学)

自由研究 8

(102室)

司会者 藤 田 輝 夫 (秋 田 大 学)
諸 岡 康 哉 (金 沢 大 学)

- 9:30 ① 問題解決学習における問題の成立と子どもの理解の深まり58
林 憲 子 (名 古 屋 大 学 大 学 院)
- 10:00 ② 教育的語りの研究(2) 子どもの「理解」をどう捉えるか
－学習者論を中心としたコミュニケーション活動の再検討－59
太 田 雅 之 (三 重 大 学 大 学 院)
- 10:30 ③ 保育活動におけるディス・コミュニケーションについての一考察60
光 本 弥 生 (新 見 女 子 短 期 大 学)
- 11:00 ④ 保育実践における受容と要求
－実践記録の分析を通して検討する－61
宮 里 六 郎 (熊 本 学 園 大 学 短 期 大 学 部)
- 11:30 ⑤ 保育における援助の表現性と身体的基底性
－教師と子どもとそれを取りまく環境との関係性の見直しの必要性－ ...62
小 川 博 久 (東 京 学 芸 大 学)

自由研究9

(203室)

司会者 天野正輝(京都大学)
市川博(横浜国立大学)

- 9:30 ① 授業における「演出」に関する一考察—H.マイヤーの論考をてがかりに— …63
宮原順寛(広島大学大学院)
- 10:00 ② 子どもの人間形成から見た体験学習の質の検討:
小学校5年生「米づくり」の実践事例の分析 ……64
飯島薫(名古屋大学)
- 10:30 ③ 量の測定にもとづく分数の導入過程 ……65
○岡野勉(新潟大学)
大田邦郎(千葉大学)
- 11:00 ④ 「ニシン山に登る」と「現代人間科学論」
—犬飼哲夫・三浦正幸・大滝重直らの「森と海」に関する複層流— …66
若菜博(室蘭工業大学)
- 11:30 ⑤ 阪神・淡路大震災と学校カリキュラムの課題(2) ……67
○杉山明男(吉備国際大学)
○佐藤年明(三重大学)

自由研究10

(204室)

司会者 黒田耕司(北九州大学)
清水毅四郎(滋賀大学)

- 9:30 ① 授業分析による子どもの発言段階の把握とその諸相 ……68
石原正敬(名古屋大学大学院)
- 10:00 ② 教育におけるコミュニケーションと記録 ……69
松尾一成(名古屋大学大学院)
- 10:30 ③ 授業過程における規範の多元性に関する実証的研究(2) ……70
山田雅彦(大阪府立大学)
- 11:00 ④ 小学校集団理解活動における非発言動機の実証的研究
—「学級全体での話し合い」において子どもたちが発言しないのはなぜか— …71
○荒木美久子(奈良市立伏見小学校)
森田英嗣(大阪教育大学)
- 11:30 ⑤ 比較授業研究—その実施と授業分析II
—太宰府西小(日本)と瑠璃庵小(中国)の実践を通して— ……72
○中村亨(西南女学院大学)
○杉谷修一(西南女学院大学)
○李霜華(佐賀女子短期大学非常勤)
宮崎やよい(九州大学大学院)

自由研究11

(205室)

司会者 藤原幸男(琉球大学)
三上勝夫(北海道教育大学)

- 9:30 ① 教師インタビューに基づいた国語科授業構成の検討
-教室ディスコースのナラティブな分析(3)-73
○幾田伸司(親和女子高校非常勤)
藤原顕(兵庫県立看護大学)
保坂裕子(大阪教育大学大学院)
山住勝広(大阪教育大学)
- 10:00 ② 教育実践の質的研究とナラティブ
-教室ディスコースのナラティブな分析(4)-74
○山住勝広(大阪教育大学)
藤原顕(兵庫県立看護大学)
幾田伸司(親和女子高校非常勤)
保坂裕子(大阪教育大学大学院)
- 10:30 ③ 大村はまの授業論(2)75
○西森章子(大阪大学)
井上光洋(大阪大学)
- 11:00 ④ 斎藤喜博の授業論-出口論争から跳箱論争へ-76
○井上光洋(大阪大学)
西森章子(大阪大学)
- 11:30 ⑤ 子どもの認識変化と授業研究の方法論的課題
-文学の理解深化に影響を及ぼす教材内容と思考方法のとらえ方の問題に即して-77
宮坂義彦(聖路加看護大学非常勤)

自由研究12

(206室)

司会者 小泉秀夫(横浜国立大学)
渡邊光雄(筑波大学)

- 9:30 ① 教育における映像の機能と役割の再考-映像のシンボル性について-78
田口真奈(大阪大学大学院)
- 10:00 ② 高校新教科「情報」の社会的 content 試案
~CALS戦略(電子商取引・国際標準化)を中心に~79
佐藤善一(女子美術短期大学)
- 10:30 ③ 批判的思考を形成するための学習環境の設計
-変化しつつあるリテラシー観-80
小柳和喜雄(奈良教育大学)
- 11:00 ④ 教職科目の授業工夫-映像教材の利用場面で-81
大庭茂美(九州女子大学)
- 11:30 ⑤ 高等学校美術教育におけるマルチメディアの現状と可能性82
○内山博子(女子美術短期大学)
○佐藤善一(女子美術短期大学)
○佐藤真澄(女子美術短期大学)

10月4日(日) 午前

自由研究13

(106室)

司会者 阿部好策(新潟大学)
藤田昌士(立教大学)

- 9:30 ① 「教師－生徒」の相互作用に関する一考察
－G.H.ミードにおける「自我と意味の生成」を中心に－83
塩路晶子(大阪市立大学大学院)
- 10:00 ② F.W.パーカーの教育思想における教師生徒関係の研究
－クインシーでの教育を中心にして－84
角野幸代(兵庫教育大学大学院)
- 10:30 ③ フレーベルの「建てること-住むこと」の人間学
－恩物による場所の創造－85
船越美穂(福岡教育大学)
- 11:00 ④ シュライエルマッヘルにおける「教育的関係」としての世代関係理解
－「1826年の講義」の「序文」の分析－86
助川晃洋(宮崎大学)
- 11:30 ⑤ H.M.ジョンソンの遊び論の研究
－積木を使った芸術的表現を中心に－87
橋川喜美代(鳴門教育大学)

10月4日(日) 午後

課題研究Ⅲ

授業における表現と身体

(大Ⅱ講義室)

(13:00～15:30)

司会者・コーディネーター

笹本正樹(高松短期大学)

深澤広明(広島大学)

提案者

小林由利子(川村学園女子大学) 教員養成におけるドラマ活動の意味

ークリエイティブ・ドラマの視点からー …88

中田基昭(東京大学) 授業における身体の共同化 ……89

若原直樹(北海道教育大学) “今、ここで” からだに問いかける教育方法

ー私の大学授業法ー ……90

(コーディネーターによる設定趣旨)

授業という教師と生徒、あるいは生徒同志のコミュニケーションにおいて、言語表現の重要性はいうまでもないことである。また、映像的表現も、現代では欠かせられないものとなっている。さらに、身体的表現は授業というコミュニケーションにおける暗喩的效果をもっているといえよう。

授業過程のなかで「知の誘発」としての音声と表情と動作は、教師という媒体の発するものとして、とくに重要であると思われる。また、「知の伝達」の根底には感動というパトス的心理現象のあるとき、最も記憶に定着すると言われる。それは、生徒の体験における真実性の発表のときに多くみられる。

授業のコミュニケーションを豊かに、しかも深みのあるものとするために、音楽的、映像的、言語的表現の根底に教師と生徒の身体的表現の訓練を重視したいものである。それは体験による真実性の表現であり、体感の発表、感動の伝達などではなからうか。

授業における表現と身体というテーマは、多様な広がりをもったテーマであり、多角的なアプローチができよう。しかしその際、表現と身体といったポストモダンの視点から授業のもつ近代性を批判することにと終わることなく、表現と身体を手がかりにすることで、授業そのものの改革と再生の実践的糸口が見い出せるような論議に深まることを期待したい。

10月4日(日) 午後

課題研究Ⅳ

子どもの成長にとってメディアとはなにか

(大川講義室)

(13:00～15:30)

司会者・コーディネーター

日比 裕(名古屋大学)

平山 満義(上越教育大学)

提案者

大島 聡(横浜国立大学) 関係性の観点からのメディアの再定義と情報化社会における主体的学習91

小笠原 喜康(日本大学) Virtualかどうかを越えて92

久米 弘(九州大学) メディアとしての発問・教示を再検討する ...93

(コーディネーターによる設定趣旨)

情報のデジタル化によるマルチメディア化、ネットワーク化が進み、だれでも地球規模の情報を大量かつ簡便に利用できるようになった。これは従来のメディアを主流とする情報化社会とは異質な社会の到来と考えられる。ネットワーク上あるいはCD-ROMのシミュレーションゲーム、アニメーションはその特異なメディア表現である。これらは、迫真性と双方向性をあわせ持つマルチメディア、「仮想現実」を実現したメディアである。こうしたメディアがますます身近な環境を形成しつつある。現実の実体験にとほしい子どもたちが、こうした仮想現実のメディアに日常的に触れたとき、かれらの事象の観察力、自然の理解、身体的発達、社会性、想像・創造力等にどのような影響を受けるのであろうか。問題の解明は緒についたばかりである。

本課題に関してこうした問題意識を持ちつつ、メディアあるいはコミュニケーションの本質について、またメディアのあり方について、教育方法学的、教育工学的あるいは視聴覚教育的に、ネガティブあるいはポジティブな視点から、積極的に究明されることを期待したい。

10月4日(日) 午後

ワークショップ

教育における『ラベル』や『カード』の創造的活用 ーその理論と実践事例ー

(202室)

(15:40~16:30)

司会者 林 義 樹(武 蔵 大 学)(企画者)

提案者 那 須 信 樹(中村学園大学短期大学部)

北 崎 加寿雄(熊本県・小峰小学校)

北 崎 恵 理(武蔵大学総合研究所)

竹 迫 和 代(計画技術研究所)

(設定趣旨)

教室で、カード(短冊)やラベル(シール、紙片)は、日常的に活用されている。KJ法などは、その典型例である。

特に、個人や集団の創造的な活動のツールとして、その有効性は経験的には、広く認められている。しかし、その体系的な理論や活用の方法について、情報を交流する場はあまりなかった。本ワークショップでは、林の個人発表(参画型教育の現状と課程:自由研究7)にリンクさせて、『ラベルワーク』の理論と実践例(幼児教育、小学校教育、社会教育、まちづくり教育など)を紹介する。

ラベルやカードの活用についての素朴な疑問にも答えたい。また、参加者の方で事例をお持ちの方の紹介をお待ちしています。(企画者)

ラウンドテーブル

教育方法学における構成主義の問題

(201室)

(15:40~16:30)

提案者 山 口 武 志(福岡教育大学)

山 住 勝 広(大阪教育大学)

森 藤 義 孝(福岡教育大学)(司会者・世話人)

(設定趣旨)

学校教育は多様な側面から検討されるべき営みである。そうであるにもかかわらず、必ずしも領域越境的な議論はそれほどなされてきてはいない。学校教育の枠組みそのものが根底から問い直されてきている今こそ、私達は、教育研究の個々の領域で採用されてきている語り口を突き合わせ、対話的に、学校のあるべき姿を模索する必要があるだろう。このような問題意識を背景として、本ラウンドテーブルにおいては、70年代後半以降、教育研究の多様な領域で注目され、かつ多くの教育論議を生み出してきている構成主義(constructivism)を取り上げ、領域越境的な議論を試みてみたいと考えている。もちろん、構成主義が標榜され始めてから20年を経過した今、陣営内部の議論は多くの分派(個人的構成主義、社会的構成主義、社会的構築主義…)を形成してきており、構成主義を標榜すること自体はもはや何の意味も持たなくなっている。それゆえ、本ラウンドテーブルにおいては、構成主義をキーワードとして議論されてきている児童・生徒観、学習観、教授観、授業観などを具体的に示しながら領域間の対話を試みてみたい。(世話人)

10月4日(日) 午後

ラウンドテーブル

総合学習 実践上の課題とその克服 小学校

(101室)

(15:40~16:30)

司会者 溝 辺 和 成 (神戸大学発達科学部附属明石小学校) (世話人)
提案者 廣 岡 正 昭 (奈良女子大学文学部附属小学校)
亀 井 晴 史 (和歌山大学教育学部附属小学校)
松 藤 英 弘 (福岡県八女市立上妻小学校)

(設定趣旨)

2002年から始まる総合的学習の時間について明らかになりつつある現在、具体的な実践上の課題は何であろうか。また、その課題を克服しながら、豊かな実践を展開していくにはどのようにすればよいのだろうか。本ラウンドテーブルでは、このような意識を持つ私たちが、日々のわずかながらの実践を持ち寄り、「子どもへ期待する育ち」を手がかりに、情報交換やアイデアの練り上げを具体的に行おうと考えている。今回は、総合学習の老舗である奈良女附属小、廣岡氏の実践と最近取り組みはじめフレッシュな感覚の実践を持つ和歌山大附属小の亀井氏、そして、公立学校で取り組んでいる松藤氏を交えて、実践的な話題からアプローチを試みる。最後に司会としての溝辺が私見を交えながら、まとめようと考えている。(世話人)

ラウンドテーブル

総合学習 実践上の課題とその克服 中学校

(102室)

(15:40~16:30)

司会者 小 泉 祥 一 (高 知 大 学)
提案者 田 中 克 巳 (神戸大学発達科学部附属明石中学校)
計 良 洋 美 (福岡県鞍手郡宮田町立宮田西中学校)
宮 崎 敏 宏 (福岡教育大学教育学部附属久留米中学校) (世話人)

(設定趣旨)

「総合的な学習の時間」の運営において、何を学習させるのか、教科、道徳・特別活動、選択との関連をどうするのか、スコープとシークエンスをどうするのか、学校全体のカリキュラムとの関係をどうするのか、等、さまざまな実践上の課題に直面することが予想される。これらの課題をどのように克服するのか、意見を交換し、有益な会にしたい。(世話人)

日本教育方法学会刊行書籍

教育方法 1.	教科内容・指導方法の現代化	1 9 6 6	(品切れ)
教育方法 2.	授業改造の基本問題	1 9 6 8	(品切れ)
教育方法 3.	授業の組織化と教師の指導性	1 9 6 9	(品切れ)
教育方法 4.	学力差と教授・学習過程	1 9 7 0	(品切れ)
教育方法 5.	教育方法学 '70年代の課題	1 9 7 2	(品切れ)
教育方法 6.	授業研究の課題と方法	1 9 7 4	(品切れ)
教育方法 7.	現代学校教育論の再検討	1 9 7 5	(品切れ)
教育方法 8.	教育課程再編の原則	1 9 7 6	(品切れ)
教育方法 9.	現代訓育理論の探究	1 9 7 7	(2,100円)
教育方法10.	学力の構造と教育評価のあり方	1 9 7 9	(品切れ)
教育方法11.	現代授業理論の争点と教授学	1 9 8 0	(品切れ)
教育方法12.	学級教授論と総合学習の探究	1 9 8 2	(2,600円)
教育方法13.	いま授業で何が問われているか	1 9 8 4	(2,400円)
教育方法14.	子どもの人間的自立と授業実践	1 9 8 5	(2,800円)
教育方法15.	実践にとって教授学とは何か	1 9 8 6	(品切れ)
教育方法16.	個性の開発と教師の力量	1 9 8 7	(品切れ)
教育方法17.	教育方法を問い直す	1 9 8 8	(2,900円)
教育方法18.	新教育課程と人間的感性の育成	1 9 8 9	(1,942円)
教育方法19.	知育・徳育の構想と生活科の指導	1 9 9 0	(1,709円)
教育方法20.	学校文化の創造と教育技術の課題	1 9 9 1	(1,709円)
教育方法21.	自己学習能力の育成と授業の創造	1 9 9 2	(品切れ)
教育方法22.	いま、授業成立の原則を問う	1 9 9 3	(1,806円)
教育方法23.	新しい学力観と教育実践	1 9 9 4	(1,806円)
教育方法24.	戦後教育方法研究を問い直す	1 9 9 5	(2,806円)
教育方法25.	戦後50年、いま学校を問い直す	1 9 9 6	(1,903円)
教育方法26.	新しい学校像と教育改革	1 9 9 7	(1,800円)

(価格は税別)

最新刊・教育方法27 『新しい学校・学級づくりと授業改革』

〈内 容〉

- I. 学校の新しい役割と可能性
- II. 学級・ホームルームを問い直す
- III. 戦後授業研究と授業づくりの課題

『教育方法』は、大会当日、会場にて会員割引価格で販売いたします。

この機会に多数の方々のご購入をお願いいたします。

第18巻からは「会員頒布制」となりましたので、学会費を納入された方には、明治図書より直接お手元まで郵送いたします。

〒170-0005

東京都豊島区南大塚 2-39-5

明治図書

TEL.(編)03-3946-3151・3152

TEL.(営)048-256-1175